

立命館大学生存学研究センター
若手研究者研究力強化型プロジェクト
「出生をめぐる倫理研究会」主催

iPS・ES細胞と生殖技術

その学問的成果・技術的有用性・倫理的問題

卵子や受精卵を用いる再生医療は、生殖技術のための配偶子作成をも目指す。連環的に進む生殖技術と再生医療の現状と未来を見据えよう。

報告1：柘植あづみ 明治学院大学社会学部教授

「ヒトが人らしく生きるために先端医療技術は
いかにあるべきか」



報告2：八代嘉美 京都大学CIRA(iPS細胞研究所)准教授

「iPS細胞が示したこと、覆したこと」



指定質問者1：利光恵子 (本大学生存学研究センター客員研究員)

指定質問者2：坂井めぐみ (本学大学院先端総合学術研究科3回生)

◆ 2013年12月8日 (日)
13:30 (13:00開場) - 17:00
事前申込み不要・参加費無料

◆ 立命館大学衣笠キャンパス
末川記念会館 大講義室
603-8577 京都市北区等持院北町56-1
http://www.ritsumeijp/campusmap/map_kinugasa_j.html

◆ 問い合わせ先：立命館大学生存学研究センター事務局
603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
ars-vive@st.ritsumeijp tel: 075-465-8475 fax: 075-465-8245